

## ○本校のミッション（使命、存在意義）

- 1 肢体不自由等の障害のある児童生徒に対して、適切な教育支援を行うことにより自己実現（自立と社会参加、生活の質の向上、豊かな心）をめざす。
- 2 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「個別移行支援計画」をもとに、専門性の高い教育を行うことにより、児童生徒や保護者の期待に応える。
- 3 肢体不自由教育の先進・中核校として、地域における特別支援教育のセンター的機能を発揮する。

## ○内外の環境分析

## （国・県）

・これからの時代に必要な資質・能力の育成に向け、次期学習指導要領の要点である「社会に開かれた教育課程」を踏まえた教育の推進が求められている。

## （主体的・対話的で深い学び・カリキュラムマネジメントの視点）

・障害者差別解消法の施行に伴い、特別支援学校では、「不当な差別的取扱の禁止」や、「合理的配慮」の提供が義務づけられた。障害のある児童生徒が十分に教育を受けられるための合理的配慮について合意形成を図るとともに「個別の教育支援計画」に記載の上、定期的な見直しによる、よりよい支援が求められている。

・教育公務員としての責務と自覚を一層深め、不祥事の根絶を図る取り組みの推進が求められている。

## （地 域）

・地域の特別支援教育の身近な相談・支援機関として、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校等からの要請に応えられるよう、センター的機能を更に充実させることが求められている。

・土砂災害・地震・津波による自然災害などの緊急事態に対する児童生徒の安全管理・対応や地域の避難場所として、地域や隣接する社会福祉法人との連携による防災対策の推進が求められている。

## （関係機関等）

・医療・福祉施設隣接の特別支援学校であるため、医療・福祉との連携が図りやすい環境にある。この点を生かして教育活動の一層の充実を図る必要がある。

・就学前から卒業後までの生活について、継続的で一貫した支援のために、各地の自立支援協議会等関係諸機関との連携を進めている。

## （本 校）

・校内研究の取組を通して、授業改善の意識が高まりつつある。また、教育課程改編委員会を設置し、系統性・一貫性のある小学部・中学部・高等部の教育課程について検討を進めている。

・卒業後の社会参加を見据え、教育課程を教科や自立活動、キャリア教育の視点で整理することが求められている。

・施設生がほぼ半数を占め、旭川荘療育・医療センターとの相互理解と連携を行っている。

・児童生徒の障害は重度・重複化、多様化している。本校勤務3年未満の教職員が半数を超える現状からも、指導に関する専門性の維持向上や人材育成の継続性を確保するために、研修体系を整理することが喫緊の課題である。

・これからの医療的ケアの手技等の拡大に対応し、安全で安心な医療的ケアができるよう校内体制の整備を行う必要がある

・校内外の講師等を活用しながら専門性の向上に努めている。

・近隣の地域や諸学校と連携した交流及び共同学習やボランティア活動の充実が求められている。

・人権に配慮した言動やプライバシーの尊重及び個人情報の保護・厳重な管理が求められている。

・HP等を利用して、家庭や地域へのタイムリーな情報発信が課題である。

## （保護者）

・個別の教育支援計画の作成、相談への丁寧な対応、分かりやすい情報提供等を通して、教職員と連携できていると評価している。

・学校行事等は子どもに合っており、充実した活動を行っていると評価している。

・安心安全な学習環境やさらに安全を意識した子どもたちへの対応を願っている。

## ○ミッションの追求を通じて実現しようとする本校のビジョン（めざす学校像）

- 人との関わりを深め、生きる力や自己肯定感を育む学校
  - 1 児童生徒の可能性を追求し、自立と社会参加に向けた主体的な取組を支援する学校
  - 2 健康で安全な生活ができるよう学習環境を整え、人権やプライバシーを尊重する学校
  - 3 教職員が幅広い専門性を身につけ、保護者や地域に開かれ、説明責任を果たす学校
  - 4 特別支援学校や各機関と連携し、特別支援教育のセンター的機能を発揮する学校

## ○当該年度の具体的な学校経営目標・計画

<めざす児童生徒像>

- ①心豊かに生きる      ②健やかに生きる      ③自ら学び生きる      ④つながって生きる

### 1 教育内容の工夫・充実と適切な評価活動による授業づくりの推進（心豊かに・自ら学び）

○教育課程改編委員会を中心に、社会参加を見据え、小・中・高12年間を見通した一貫性のある教育課程を構築し、指導・支援の系統性を図ると共に、外部専門家を活用して授業改善を進める。

・「自ら学び考える力を育む一貫性・系統性のある授業づくり」をテーマに、実践発表会を開催する。

・授業づくりの基盤となる専門性や資質の向上を図るため、研修体系を再構築する。

（専門性の見える化、研修の精選、キャリアに応じた研修設定、課題別サークル研修を利用したOJTの組織づくり、専門性のセルフチェックシートの作成と活用）

・社会に開かれた教育課程を見据えて、教育活動に地域の人的、物的資源を積極的に活用していく。

### 2 保健安全教育の一層の充実と教育環境整備（健やかに）

○日常的な健康管理や安全管理の情報を共有し、見える化を図りながら的確な危機管理対応を行う。

・手技等の拡大に対応した安全で安心な医療的ケアの実施ができるよう、校内体制や環境整備を図る。

・人権やプライバシーの尊重、個人情報の保護を徹底し、児童生徒に真摯に向き合い丁寧な指導・支援の充実を図る。

・防災意識を高め、保護者や地域と連携しながら安全な教育環境の整備を進める。

（水害対応型体育館の新築をめざす。）

### 3 開かれた学校づくり（つながって）

○一人一人の願いに寄り添い、学校生活、将来の自立に向けて付けたい力、進路に関する情報等について、家庭と学校が共通理解し、合意形成を図りながら、協力して教育を進める。

・保護者や地域との双方向のコミュニケーションをめざし、HP等による積極的な情報発信を行う。

・個々の障害の状態や特性ならびに地域の学校の実態に応じて交流及び共同学習を推進していく。

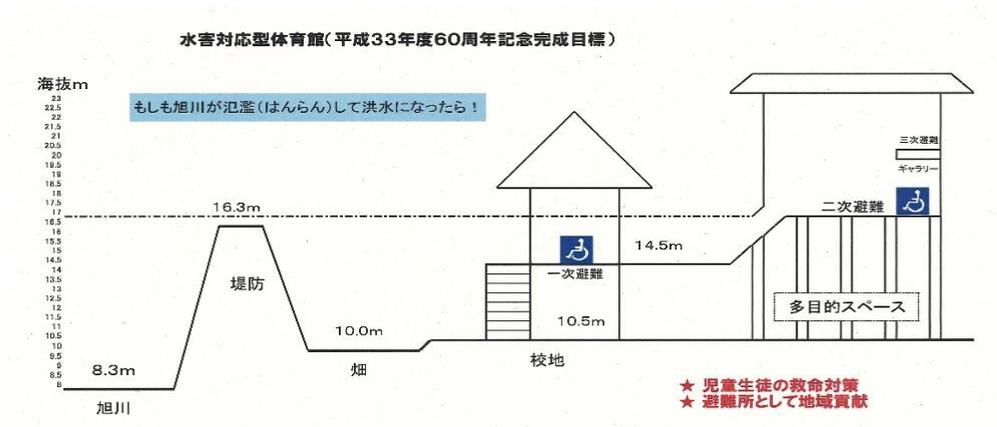
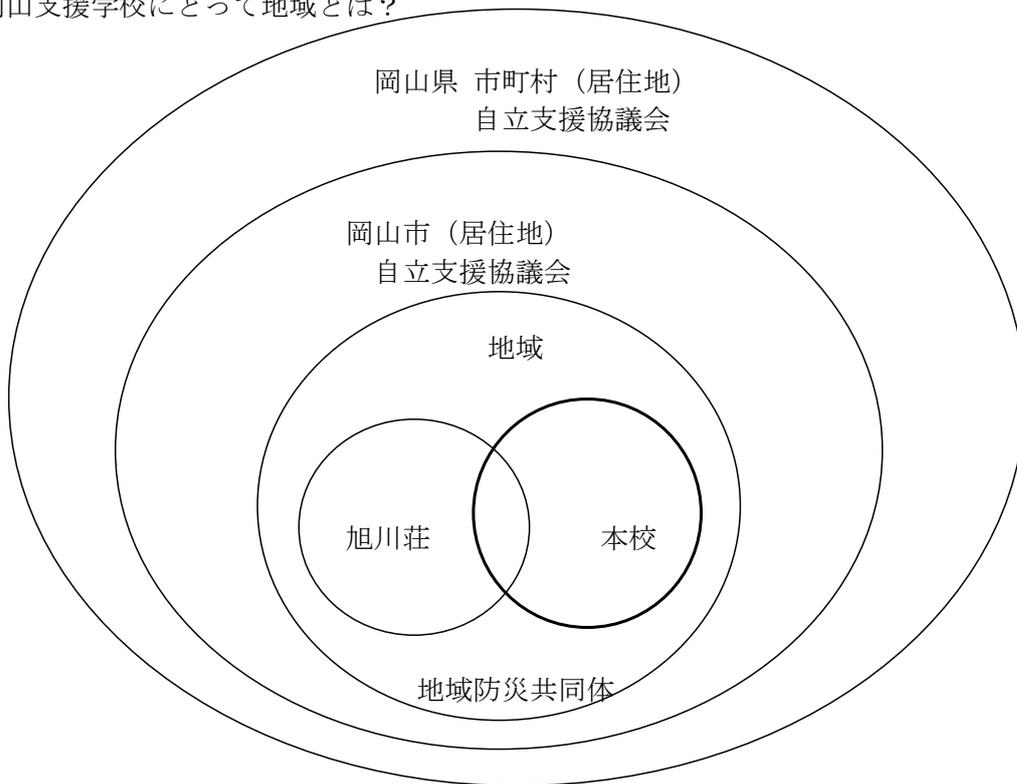
### 4 特別支援教育のセンター的機能の充実（つながって）

・肢体不自由教育の拠点校として、特別支援学校と協力しながら、幼・小・中・高等学校等や地域への支援（教育相談・個別の教育支援計画の作成、専門的指導等）を積極的に行う。

・学校公開・授業公開・公開講座・学習教材の紹介等の情報発信を行い、特別支援教育を推進する。

・地域の自立支援協議会等へ積極的に参加し、家庭や医療、居住地の福祉等関係機関との連携を一層強化するとともに、情報の収集及び発信に努める。

岡山支援学校にとって地域とは？



◆学校教育目標◆

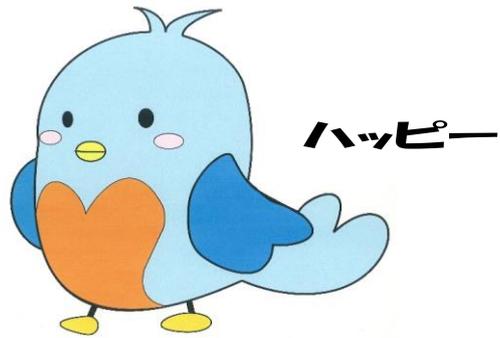
「さまざまな制約をのりこえ  
心豊かに自分探しの学習を続け  
等しく社会に参加していく  
人間を育成する」

◆校訓◆

「手を取りて 交わす笑顔で 一歩ずつ」

◆教育方針◆

- 1 一人一人が主人公となる学校
- 2 学び合い、高め合い、育ち合う学校
- 3 安全でゆきとどいた学校
- 4 地域に根差し、開かれた学校



◆しあわせいっぱいプロジェクト◆

\*商標調査確認済み

© 著作権は本校に帰属しています。

自立と社会参加  
・  
生きる力